

寄附金資金運用報告書(令和4年度)

(単位:千円)

寄附金種類	基本ポートフォリオ区分	実践ポートフォリオ投資対象資産(戦略)	基本ポートフォリオ保有割合	A元本投資額	投資来評価損益			今期(2022.4-2023.3月期)運用実績				
					B簿価額(割合)(%)	C時価額(割合)(%)	D評価損益(C-B)	H総合収益(運用コストを含む)(E+F+G)			L修正総合収益率	
								E利息配当収益	F売却益	G評価損益増減		
東大基金	円ベース債券	先進国債券	60%	3,300,000	3,289,750 29.6%	2,903,098 22.7%	-386,652	0	0	-169,349	-169,349	-5.67%
		クレジット(債券マルチ)		3,300,000	3,386,049 30.4%	3,181,018 24.9%	-205,031	20,012	0	-277,321	-257,309	-7.54%
	グローバル株式	グローバル株式(内外上場株式)	20%	2,200,000	2,212,425 19.9%	3,702,281 29.0%	1,489,857	43,354	0	157,980	201,334	5.36%
	オルタナティブ	プライベート・エクイティ	20%	1,100,640	1,100,005 9.9%	1,812,824 14.2%	712,818	0	0	117,385	117,385	6.27%
		不動産		1,094,911	1,135,313 10.2%	1,174,964 9.2%	39,651	40,472	0	894	41,367	3.64%
	小計			100%	10,995,551	11,123,542 100.0%	12,774,185 100.0%	1,650,643	103,839	0	-170,410	-66,571
目的指定寄附金	満期保有目的債券		-	7,700,000	7,699,679	7,834,150	134,471	114,186	0	-	114,186	1.48%
	債券パッシブファンド		-	14,700,000	15,422,798	12,953,063	-2,469,734	283,021	0	-1,353,035	-1,070,014	-7.65%
	単独運用金銭信託		-	600,000	643,659	649,001	5,341	3,994	-	-3,688	306	0.05%
	小計		-	23,000,000	23,766,136	21,436,214	-2,329,922	401,201	0	-1,356,723	-955,521	-4.02%
合計				33,995,551	34,889,678	34,210,399	-679,279	505,040	0	-1,527,133	-1,022,093	-2.93%

【概況コメント】

今四半期(1~3月)の株式市場は、1~2月にかけてインフレのピークアウト観測からFRBが利上げペースを緩めるとの見方が広がり米長期金利が低下したこと、さらに中国がゼロコロナ政策を終了し欧州で景気後退懸念が緩和したことを受け、世界的に上昇した。3月に入ると米地方銀行の経営破綻を契機とした金融不安が広がり一時急落したものの、後半は落ち着きを取り戻し再び上昇した。  
 債券市場は、1月に欧米で金融引き締め緩和の見方が強まり金利が低下したものの、2月にはインフレ高止まりからFRB、ECBIによる利上げ長期化が意識され金利は上昇、3月に入ると金融不安の高まりから債券の買いが加速し再び金利低下にシフトした。国内では、1月に日銀の金融緩和修正観測から金利が上昇したものの、2~3月は欧米の金利低下に連れて低下した。  
 為替市場は、欧米金利と国内金利差の変動から一進一退で推移したものの、四半期を通してみると2月の金利差拡大による円売りが大きく、円安に進展した。  
 ・国内株式は+7.2%、先進国株式は+8.9%の上昇  
 ・国内債券は+2.2%の上昇  
 ・外国債券ヘッジありでは国債型で+1.7%、総合型で+1.4%の上昇、ヘッジなしでは円安進展がプラス寄与し国債型で+4.6%、総合型で+4.1%とさらに上昇  
 ・為替は円安に推移し、対ドルで+0.9%、対ユーロで+2.7%

\* 利息配当収益 = 利息・配当金収入 + 未収収益増減

\* 未収収益増減 = 当期末未収収益 - 前期末未収収益

\* 評価損益増減 = 当期末評価損益 - 前期末評価損益

\* 修正総合収益率 = 今期収益額 / 元本平均残高